# 青梅市文化財ニュース

第３６１号

平成２９年１１月１５日

発行　青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町 1-684　℡0428-23-6859）

## 新町の開村

新町地区は、ＪＲ小作駅から北方の藤橋地区へ向かう途中で、青梅市内では東端に位置している。一丁目から九丁目までに分けられ、最近（平成 29 年）の人口総数は約２万５百人で、青梅市の総人口の約 15%を占めている。

新町村は、武蔵野台地で最初に成立した「新田集落」である。新田集落とは、安土桃山時代までに成立していた、多摩川の近くや霞川の北側にある古集落に対し、江戸時代に成立した、新しく開設された集落を意味している。新町村は慶長 16（1611）年に、吉野織部之助（？～1639）が幕府の許可を受け、２年後の慶長 18（1613）年から数名の協力者を得て、水も無い荒涼とした場所に、新しく村を成立させた。

集落の設置に先立って、まず、道路の整備を行っている。それまでは、北西方の師岡と箱根ヶ崎を結ぶ道路は、市立泉中学校から大井戸の南側を通っていたが、それを中学校から南東方向の鈴法寺まで延ばし、そこから桜株を通って箱根ヶ崎へ向かう現在のようなコースにした。そのため、中学校から鈴法寺までの間は、「大曲り」と呼ばれるようになった。この他にも、周辺の道路を整備し、また入植者のために、鈴法寺から桜株にかけて、幹線道路の両側の地割りも行なっている。

近くには川や湧水地がないので、生活用水を得るため井戸を設置することにした。

最初、織部之助の自宅の庭先に設けることにし、11 日間をかけて深さ約 27ｍまで掘ったところ、地下水が安定して得られることが分かった。この井戸は「慶長の井戸」と称され、現在でも吉野家住宅の前庭に保存されている。「慶長の井戸」が完成した翌日からは、宮寺次郎右衛門の敷地でも掘り始め、29 日間をかけて約 25ｍの井戸を設けた。宮寺の井戸が完成してから 48 日間の休息の後、56 日間をかけて塩野仁左衛門の井戸（新町の大井戸）を完成させ、開村と同時に７か所に井戸を設けた。元和２（1616）年９月、開拓地を「新町村」と名付けた。

それより前、慶長 11（1606）年から、成木地区で生産された石灰は、馬の背中に載せられ、七日市場から現在の岩蔵街道を経て箱根ヶ崎へ向かっていた。吉野織部之助は入植者も、石灰輸送に携わって収入が増えるよう、岩蔵から赤坂峠 ～ 今寺 ～ 新町 ～ 箱根ヶ崎のコースを開いた。裏面の古図は、新町村が開村してから約 150 年後の明和４（1767）年に描かれた地図である。当時の道路網や家屋の分布を記録している。

（文責　角田清美）